

千川巡検

金久 恵

9月22日9時30分、JR中央線武蔵境駅に集合したのは、田宮教官を含めわずか5人であった。9月は週末台風によく見舞われた月であったが、この日曜日だけは晴れ上がり気温も丁度良く、絶好の巡検日和となった。

この巡検のテーマは「千川上水の跡をたどる」で、ただただ歩いたのが第一の感想である。

まず、武蔵境浄水場から、玉川上水に沿って歩いた。玉川上水を最初に見た時、「東京には珍しい」と感じたが、それは普通の川と違い護岸工事が施されず、土の岸には草木が茂っていたからである。また、コイが泳いでいるのが見られた。

少し歩くと千川上水分水口に着いた。ここから千川上水が始まるのである。

千川上水は、江戸時代人口が増加するに従い都市用水の需要が増大したため、城北地域に給水するために元禄9年(1699)開設され、その後、廃止、再開を繰り返しながら、時代によって都市用水、農業用水、工業用水など様々な役割を果たしたが、昭和46年(1971)、完全に水が流されなくなっていた。だが、「マイタウン東京構想」の一部として清流復活事業が計画され、野火止用水、玉川用水に続き1989年千川上水に再び水が流されるようになったのである。

私たちは分水口から青梅街道まで約5km、千川上水に沿って歩いた。この部分は開渠化され流れが見える所である。大部分は護岸工事が施され、流れも細く、とても昔の千川用水を思わせるようなものではなかったが、鯉が泳いでおり、周りには木々が植えられベンチなども置かれており、都民の憩いの場として生まれ変わっていた。流されている水は、清流復活の名の通り、基準以上にきれいにされた清水だそうである。こぎれいに整備され、良い印象を受けた。

しかし開渠部分はこちらまでで、ここから暗渠となり流れを見ることは出来なくなった。また、23区内とはいえ、それまで周辺に見られた畑も、これからは全く見られず、ただ市街地を歩いているにすぎなくなってしまった。

西武新宿線上井草駅で午前の部は終了、それからバス・電車で移動し、午後は西武池袋線江古田駅前の浅間神社からのスタートとなった。

暗渠後は道路などになってしまった所が多いが、上水を避けるため曲げられた道路や、民家にある上水との境を示す石、道路の真ん中にあるマンホールのふたに書かれている「千川上水」など、姿は見えないが、上水が確かに流れていたことを感じさせるものを見ることができた。

また公園になっている所や、ただ金網がはられ空地になっている暗渠跡もあり、ここならば、再び開渠して整備し、水のある公園にでもすることは不可能ではないと思われた。

流路をたどっていくと、豊島区の東長崎6丁目ではほぼ直角に曲がっていたり、北区では明らかに周りより高かったりと、普通の川ならばなり得ない所があり、用水を作る上で工夫もかなり必要であったことが伺えた。

最終地点は西巢鴨の千川上水公園であったが、かつての上水は、この先吉原まで達していたという。この公園に着いたのは予定より1時間も早い午後4時であった。最初は寂しい気もしたが、市街地を歩くことを考えると、少人数だったのは幸運であった。

千川上水はかつての役割は果たし終え、私たちの前から消えていこうとしているが、環境用水として新たに生まれ変わってほしいと思う。

(9月22日 田宮教官指導)